



Junior Chamber International
Yokkaichi

三泗地区 地方創生の可能性を広げる 提言書

一般社団法人
四日市青年会議所



目 次

1. 理事長挨拶	3
2. はじめに	4
3. 背景	5
4. 三泗地区 地方創生の可能性を広げる提言	6
提言①■ 能動的市民の創出となる取組の提案	6
提言②■ 三泗地区の可能性・連携の推進の提案 ...	12
5. あとがき.....	16
持続可能なまちの実現へ向けて	16
*資料・参考文献	17
*フォトコンテストアンケート	18

理事長挨拶



一般社団法人四日市青年会議所

第67代理事長 矢野 陽一

この度、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に罹患された方々には謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご快復を心よりお祈り申し上げます。また、最前線で地域の健康福祉に貢献してくださっている医療従事者、介護従事者の皆様に心より敬意を表します。不安な日々を過ごされている皆さまにおかれましても、一日も早い事態の収束を心よりお祈り申し上げます。

一般社団法人四日市青年会議所は四日市市を中心として近隣の三重郡を含め、20歳から40歳までの青年が地域社会と国家の健全な発展を目指し、様々な社会課題を解決するべく活動に取り組んでおります。

言うまでもなく国家の社会課題は多岐にわたり、様々な問題が複雑に絡み合っている状況であります。そして、我々が住み暮らす地方においても地域社会の課題は多く積み重ねられてきており、我々青年世代は先人たちが成し遂げてこられたように、これからの国家と地域の課題解決に向けて行動を起こし続けることが使命であると強く確信をしております。

我々が住み暮らすそれぞれの地域においては、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が新たに策定され、これまでより一層に地方創生へ向けての動きを加速していかなければなりません。地方創生とは人口減少に歯止めをかけると共に東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保し、将来にわたって活力ある地域社会を実現することであり、2021年度は青年会議所として人口政策に対し解決を図る運動を展開することは今後の地方創生にとって極めて重要であると考え活動を行って参りました。

「地方創生の可能性を広げる持続可能なまちづくり」を掲げ、2021年度の活動を通して得られた本提言書が、それぞれの地域にとってより一層に地方創生の可能性が広がる一助となりますことをご祈念いたします。

はじめに

近年日本では、人口の東京一極集中が進展し地方との格差が拡大しています。今後地方では人口減少が一層深刻化し、地方の衰退が危ぶまれています。そのため、地方自治体の地方創生は、現代日本において極めて重要な課題であり、そして、大きな社会的問題であると捉えています。こうした事態に対処するため、それぞれの市町村では、地方創生をめざす持続可能で体系的な施策が求められています。地方創生の実現に向けて、あらゆる可能性を広げ、人口減少に歯止めをかけると共に東京圏への過度な人口集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保し、将来にわたって活力ある地域社会を実現することが求められます。

本年度、まちの未来創造委員会では約一年に亘り、四日市市・菰野町・朝日町・川越町（以下三泗地区）で求められる、地方創生への課題解決に対して「人口減少問題」・「首都圏への過度な人口集中の是正」などに焦点を定め、調査、研究から社会実験を行い、持続可能なまちへの実現に向けて活動をして参りました。本委員会では2021年3月に【選ばれることが未来につながる！～モテるまちって何ですか？～】と題し、まちの課題を特定する活動を実施しました。「日本の人口減少問題」・「地方創生の先進事例発表」・「我々が住むまちの課題とその解決方法」をグループワークで議論し、地方創生が他人事ではなく我々の住むまちの将来にも影響があることや、そのために我々はどう行動するべきか、などをテーマにお伝えいたしました。3月の活動を経て得た地域の課題として、まず我々の住むまちを「知って・来て・好きになって・住んでいただく」、その手段として、2021年6月1日～7月31日の2ヶ月間にわたり、四日市商工会議所様・一般社団法人四日市観光協会様・株式会社三十三総研様とパートナーシップを結び、民間が行う地方創生の社会実験として、Instagramを使ったフォトコンテストを行いました。「地方創生2021PROJECT」と題したこの活動では、関係人口からも投稿いただくため四日市市のみならず菰野町・朝日町・川越町からも後援をいただき開催いたしました。2250の作品が投稿され、地域の方々も自分たちの住むまちの魅力を再発見し、地域外の方々の投稿からは改めて地域の魅力を知ることができました。自身が住むまちの魅力ばかりではなく、まちの問題、課題を発信するという新たな試みもあり、三泗地区全体での愛着や持続可能なまちに向けた新たな視点の活動となりました。

本提言書は、我々が住む三泗地区が、どうすれば地方創生への歩みを推し進めることができるか、そしてどのようにして地方創生の可能性を広げ、持続可能なまちづくりとなり、三泗地区全体が活性化していけるのか、本年度、我々の一年間の活動を通し提言書としました。本提言書が、我々の住むまち三泗地区の、地方創生の実現となる一助となれば幸いです。

令和3年 11月

一般社団法人四日市青年会議所 2021年度まちの未来創造委員会

背景

地方創生とは、2014年から開始された地方活性化を目的とした政策ですが、未だ多くの自治体では、人口減少・人口流出に歯止めが掛かっていません。しかし近年、国の指針に則った政策から、地域特性や地域資源を活かした政策を行う自治体も増えており、人口増加につながっている自治体もあります。三泗地区は約38万人の地域であり三重県の人口比率で約21%を占めています。三泗地区では2021年現時点において急激な人口減少に陥っていませんが、中長期的な視点で見ると「少子高齢化」・「生産年齢人口の減少」などを原因とした地域の経済活動の減速・伝統的な行事やイベントの消滅など、地域の活力を低下させる様々な影響をもたらす可能性があります。そのような中、三泗地区では国からの財源に頼らない、四日市市と川越町の2つの不交付団体を有しており、三重県においてはこの2つの市町だけです。また朝日町は名古屋市ともアクセスが良く、ベッドタウンとして需要が高まっており、菰野町においては様々な観光資源を有し交流人口が多く、自然も豊かなことから子育て世代の需要があり、まだまだ今後発展可能な地域特性といえます。地方創生・人口減少問題・首都圏への過度な人口集中の是正（以下地方創生）には、様々な背景や課題があり、交流人口・関係人口・定住人口の三つの柱を例にしても、それぞれのアプローチは多岐にわたります。

そこで一年を通じた調査、研究、社会実験の結果を踏まえ、デジタル時代に則した能動的市民の創出策の提案、1市3町でスケールメリットを活かした連携の可能性を提案し持続可能なまちの実現に向け役立てていただきたく提言書を作成いたしました。

*本提言書にて、以下 能動的市民＝ここでは地域社会の課題解決において、自ら目標を見つけそのために行動し、地域社会を巻き込み、他者へも影響を与える人材と定義します。

三泗地区 地方創生の可能性を広げる提言

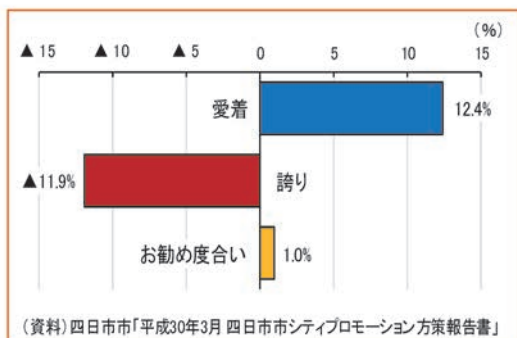
提言① ■能動的市民の創出となる取組の提案

現状と課題

近年問題視されている通り、少子高齢化による人口減が緩やかに始まっており、2010年の1億2,800万人をピークに減少傾向にあります。また、高齢化率も2010年時点で23%を推移しており、更に30%~40%と超高齢化社会になっていくとされています。人口そして住民が減少する中でまちの経済を維持するには、職を求め他県より転入する社会増を見込むか、観光業に力を入れて全国から集う関係・交流人口の増加を見込む必要があります。そのためには何を魅力としてまちを活性化していけば良いのでしょうか。参考に四日市市の魅力に関するアンケートなどを紐解くと、すごくいいところは無いが悪いところも無い、総じて暮らしやすく切迫した課題も少ないと導かれています。しかし少子高齢化の中、暮らしやすい、問題が少ないという内向きな魅力では人口予測と同じ下降の一途をたどります。地域特性や、地域資源を活かした価値の創造、そして、知名度の向上など、様々な価値観からの課題解決などが求められると考えます。

我々の住む三泗地区は、自然が溢れ子育て世代の方が住みやすいまちです。観光資源も多く、大都市圏へのアクセスが良く需要が高まっています。しかし、三泗地区においては、高齢化・人口減少問題という大きな課題に悩まされており、地域に住む一人ひとりが、地方創生の可能性を広げ、人が集い安心して暮らすことができる魅力的なまちの実現が求められます。

【四日市市に対する愛着・誇り・お勧め度合い】



【四日市市における住民満足度】



行動：Action

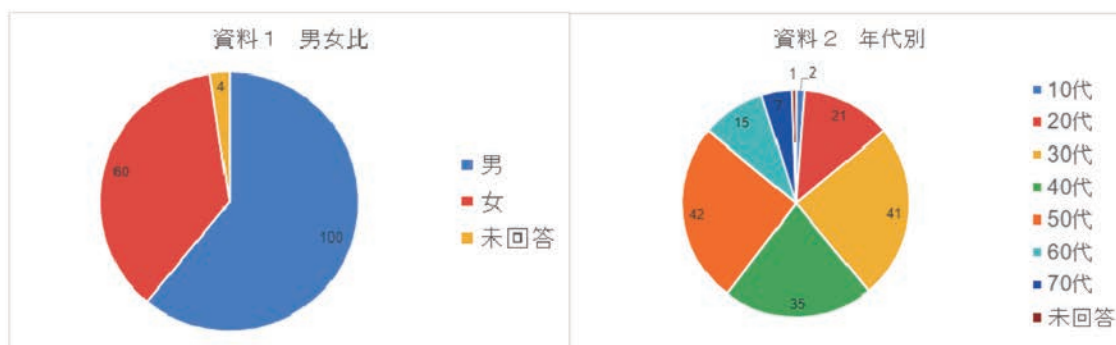
我々、まちの未来創造委員会は、三泗地区の行政の方々と連携し、この地域の各諸団体とパートナーシップを結び、地方創生2021PROJECT実行委員会を設立しました。本フォトコンテストでは、SNSの投稿といった手軽な方法で一人でも多くの人が集い、参画意識をもってもらい、身近なことから地方創生の可能性が広がると理解していただきました。フォトコンテストでは四日市市の「自然・風景部門、伝統・文化部門、グルメ部門、産業・工業部門、まちのお悩み部門」の5部門に分けられ、一般市民から2021年6月1日から7月31日までに「#四日市でみつけた」とハッシュタグを付けていただき、延べ2250件程の投稿がありました。

投稿者の皆様には、実行委員会よりアンケートをお送りして164名のご回答をいただきました。男女比は男性100名・女性64名と男性の比率が高く（資料1）、年代別で分けると30代41名・40代35名・50代42名と30～50代の方から多くの投稿をいただきました。（資料2）。さらに70代の方も7名参加していただいたことから、年代を超え、SNSを通じた地方に対する関心や参画の可能性を見出せたのではないかと考察します。

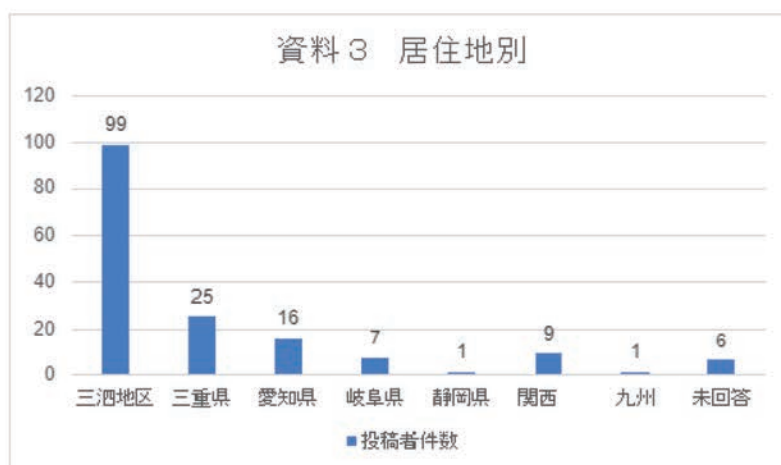


【地方創生2021PROJECT】フォトコンテストポスター

【以下 アンケート調査結果】



アンケートでは、投稿者の居住地も回答していただきました。三泗地区(四日市市・菰野町・朝日町・川越町)の方の投稿が99件と最も多く、その他大阪・兵庫などの関西方面や遠方では福岡県からの投稿者もありました。(資料3)。アンケート結果から、既に関係人口において潜在的なポテンシャルがあり、SNSを活用することで県外などに広報を行わなくとも周知されていくということが分かりました。



■取組 1 :今回、社会実験として、四日市市に地域を限定し関係・交流人口の創出を目的としたフォトコンテストを開催いたしました。参加していただいた方々からは「継続的に開催して欲しい」・「四日市市内だけの写真ですか」などの声がありました。今回は四日市市に限定しパートナーシップを構築しましたが、三泗地区全域でのフォトコンテスト及び魅力マップの作成の実施など、三泗地区の行政や観光協会、民間企業と広域でパートナーシップを広げることで、実務面での開催が可能になると考えます。また、三泗地区全域で実施することで、多くのまちに住む方々が参画できる取り組みとなり、様々な関係・交流人口の機会へ発展すると考えます。そして地域参画型の魅力マップには、民間企業に広告を公募することで予算面でのハードルも超えられ、広報や景品が充実することとなり、まちの方々の関心興味が深まりより多くの参画が実現すると考えます。

■実施後の効果として：

- ・地域の方々が簡単に参画することができ、能動的市民の創出となります。
- ・広域の魅力を発信することで、三泗地区の海・山・川・文化といったより地域特性を活かした写真が投稿され、三泗地区のアピールにつながります。
- ・参加者が地域の魅力を発見し発信することで、シビックプライドが醸成されます。
- ・広域的なマップを作成することで、通過型ではなく着地型の交流人口を創出できます。
- ・見て・知って・来てもらう機会を増やすことで、関係人口の創出につながります。

■取組 2：今回のフォトコンテストは、四日市大学での政策提言発表会を機会に、四日市青年会議所の他に、四日市商工会議所様・一般社団法人四日市観光協会様・株式会社三十三総研様の地域企業・各諸団体がパートナーシップを構築することで実現できた持続可能な取り組みの一つであります。昨今、企業のサステイナブル推進活動やSDGs推進の動向から民間企業の社会的責任を果たす取り組みなども行われています。今回、四日市商工会議所様・株式会社三十三総研様へヒアリングを行ったところ、企業・市民・行政が連携したサステイナブル活動を取り組んでいる事例は四日市市には無いとご回答をいただきました。企業側も、地域活動を行う側も共に連携できる機会が少なく、互いの立場からどの様に協力して行動できるのかがわからない事実もあると考えます。そこで、企業・市民・行政が結びつく場所となる連携・協働のプラットフォームを構築し、地域全体で取り組むサステイナブル推進活動やSDGs推進を推し進める機会も必要と考えます。行政や商工会議所を通じて、企業・団体へのサステイナブル活動におけるアンケートやヒアリングを行い、サステイナブル推進活動やSDGs推進に対して意欲のある企業をリストアップしWEB上で誰もが地域活動の推進に役立つ情報を知りえる機会を提供することが、「能動的な市民・企業・団体の創出」につながると考えます。

第32次地方制度調査会「2040年頃から逆算し顕在化する諸課題に対応するために必要な地方行政体制のあり方等に関する答申」の概要（令和2年6月26日総理手交）

3. 公共私連携

✓ 住民に必要なサービスを確保していくため、行政のほか、コミュニティ組織、NPO、企業等の地域社会の多様な担い手の連携が重要に

① 連携・協働のプラットフォーム構築

- 地域の多様な主体の連携・協働のプラットフォームを市町村が構築
- 民間人材と地方公務員の交流環境の整備
(例：多様な任用形態・兼業許可の活用等)

② 地縁法人制度の再構築・共助の担い手の基盤強化

- 地域課題への取組を行う地縁法人制度として、認可地縁団体制度（自治会による不動産保有のための法人制度）を再構築
- 市町村は、共助の担い手に人材・資金・ノウハウ等を支援
(例：地域運営組織・集落ネットワーク圏、地域おこし協力隊・企業人)

【引用・令和2年度総務省自治行政局市町村課資料より】

■実施後の効果として：

- ・能動的市民の創出・活躍につながる。
- ・例として、海岸清掃など既に行っている市民活動に、企業が協賛や協働し易くなり、活動の持続可能性が高まる。
- ・それぞれの企業単体での社会貢献活動においては、人員を投入できない場合もあるので、親和性の高い取り組みに民間人が参加することで、実現のスピードや成果が高まります。
- ・活動において、計画段階から民間人が参加することで、民間人と取り組んでいる事実から、企業のイメージアップや知名度向上にもつながります。
- ・地域の課題解決や地域活動において、素晴らしいアイデアや情熱を持った民間人が企業と協働することで、より良い地域社会の実現に向け行動できる機会が増えます。

未来ビジョン（展望）

想いを持ったまちの人々にアイデアを持ち寄っていただくことで、様々な視点から地域の可能性を広げられます。行政・企業・まちに住む人々が一体となり、能動的市民を増やすことが出来れば、取り入れられる意見も多様となり、様々な可能性を発見し、魅力ある持続可能なまちへ近づくことができると考えます。

また地域の人々がSNSを通じ簡単かつ日常的に地域と関わることで、持続可能なまちに向け、行動ができる人材となると考えます。三泗地区全域でのフォトコンテストが実現すれば、より広域的な魅力の発見・発信につながり、人口減少時代に欠かせない関係人口の創出につながると考えます。

提言② ■三泗地区の可能性・連携の推進の提案

現状と課題

人口減少社会において、高齢化や人口の低密度化等により行政コストが増大する一方、資源に限られる中、行政サービスを安定的、持続的、効率的かつ効果的に提供するためには、あらゆる行政サービスを単独の市町村だけで提供する発想は現実的ではなく、各市町村の資源を有効に活用する観点からも、地方公共団体間の連携により提供することをこれまで以上に柔軟かつ積極的に進めていく必要があります。

三泗地区は古くから交通の要衝として栄え、関東と関西の中間に位置しています。現代においても三泗地区は通過型の観光や来訪が多くを占め、着地型の観光や来訪を促し地域経済などへの波及効果を高めることが求められます。三泗地区でも警察・消防・医療など既に連携が進んでいる分野もあります。広域観光や文化振興、スポーツの推進など連携を模索することでスケールメリットを活かし知名度の上昇や関係・交流人口の増大につながるものと考えます。

行動：Action

約一年に亘り、三泗地区それぞれの行政の方々、市議・町議会議員、民間企業、大学などとの連携を通じ、調査研究・勉強会や事業を展開して参りました。9月に行った三泗地区の政策に関わる行政の方々とのパネルディスカッションでは、それぞれの市町のポテンシャルや課題を議論し、それぞれのまちの強みを活かし、弱みを補い合う、連携の可能性を模索しました。地域住民に対しても課題意識を共有し、住民・行政にとってどの様な役割がお互いにあるかなど、連携に向けた可能性を議論しました。【FUTURE 21 北勢】や【四日市広域緑の基本計画】など既に実施や運営を模索されている取り組みの中で、さらに地方創生の実現、持続可能なまちづくりを加速させるため、まちに住む方々や民間企業との協働、連携も新たな視点と考えます。

■取組 1 : 全国的に市町村の地域間の連携や成長戦略会議の実施なども取り組まれている中、三泗地区としても「三泗地区・広域地方創生会議体の発足」などは、地方創生の可能性を広げる取り組みとして重要な施策だと考えます。現在それぞれの市町総合計画には、広域観光の推進や連携中核都市圏構想も記載されており、一日も早い具体的施策が求められます。先進事例では行政のトップと有識者を交えた会議体や、産官学一体となった会議体などもあり、三泗地区においても多くのステークホルダーを巻き込み、持続可能なまちとなることを目的とした会議体の設立が必要と考えます。

■実施後の効果として：

・三泗地区それぞれではなく、三泗地区全体で魅力を活かした広域観光の推進が可能になり、着地型観光の促進につながります。（朝日町で東海道の古い街並みを散策し、川越町では北勢に唯一残る高松海岸の砂浜で遊び、四日市では商店街でウィンドウショッピングを楽しみ、夜はナイトクルーズから工場夜景を楽しみ、自然豊かな菰野町に泊まり温泉を満喫するなどそれぞれの観光資源をパッケージ化）

・とこわか国体施設や既存施設を活用した広域スポーツ大会などの開催により、施設の有効利用と市民町民の健康促進につながります。

・すでに住民レベルでは市町をまたいだ交通システムの利用は進んでおり、連携することで、交通インフラの維持が可能になり、交通弱者の低減につながります。

■取組 2 : 三泗地区にはそれぞれの地域特性があり、魅力的なコンテンツはあるものの、コンテンツのボリュームや宿泊施設の数などで、通過型の交流人口が多く、地域に経済的メリットを効果的にもたらしていない現状もあります。しかし令和元年の三重県観光実態調査では、「再来訪したい」というアンケートの割合が三重県で（北勢地区）最も高いことがわかりました。そこで、今後リニア開通・バスタ四日市の運用が推し進められる中、四日市市が窓口となり、三泗地区広域観光プランの作成の実施など、それぞれの市町で観光資源となる魅力を三泗地区全体で発信する新たな観光ルートづくりなども必要と考えます。

平均滞在時間（日数）－滞在種別・地域別

		全体	北勢	中南勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
RI 通年	平均日帰り滞在時間（時間）	5.2	5.1	4.9	6.6	4.9	5.4
	平均宿泊数	1.2	1.1	1.4	1.3	1.1	1.2
H30 通年	平均日帰り滞在時間（時間）	5.3	5.6	4.4	6.6	5.5	5.7
	平均宿泊数	1.2	1.1	1.2	1.2	1.1	1.4

【引用：三重県令和元年 観光レクリエーション入込客数推計書・観光客実態調査報告書より】

地域別紹介意向

RI 通年

	大変 そう思う	そう思う	やや思う	リピート 意向率	どちらで もない	あまり 思わない	思わない	全く 思わない	未記入	回答 者数
北勢	57.3%	31.8%	7.0%	96.1%	2.9%	0.3%	0.4%	0.3%	0.1%	768
中南勢	21.0%	49.7%	18.9%	89.7%	8.1%	0.6%	0.4%	0.1%	1.0%	776
伊勢志摩	45.3%	41.8%	8.7%	95.9%	2.2%	0.4%	-	-	1.5%	803
伊賀	34.4%	44.3%	14.0%	92.7%	4.4%	0.7%	0.3%	0.1%	1.7%	700
東紀州	36.7%	46.4%	8.1%	91.2%	5.3%	0.8%	0.0%	-	2.6%	491
全体	39.2%	42.5%	11.6%	93.3%	4.5%	0.5%	0.2%	0.1%	1.3%	3,538

【引用：三重県令和元年 観光レクリエーション入込客数推計書・観光客実態調査報告書より】

■実施後の効果として：

- ・観光・宿泊を地域内で完結させることにより、地域内経済循環が推し進められます。
- ・三泗地区の魅力を知る機会が増え、関係人口、交流人口、定住人口の創出につながります。
- ・三泗地区において人口というパイが縮小する中、地域外からのヒト・モノ・カネを呼び込み持続可能なまちへとつながります。

未来ビジョン（展望）

三泗地区の連携が進むことにより、能動的市民が増える機会となり、行政の業務効率化やインフラのコスト削減などのメリット以外にも、通過型から着地型の観光資源の創出による関係人口の増大、広域連携を主軸とした企業誘致、三泗地区全域規模での地域経済循環などが見込まれ、人口減少や地域経済の縮小などの課題解決につながると考えます。現在、四日市市ではバスタプロジェクトが計画されており、三泗地区はもとより、三重県域全域の玄関口となり、世界規模で様々な人々が訪れることが予測される中、地域資源を最大限活かした持続可能なまちへとつながります。

あとがき

持続可能なまちの実現へ向けて

本提言書は、三泗地区の地方創生の実現に向けて、まちに住む方々、各諸団体、各行政組織と現状を共有し、「地方創生の実現に向けた取り組み」、その具体的施策として「能動的市民の創出となる取り組み」そして「三泗地区の可能性・連携の推進の提案」の2項目について述べてきました。まちの課題や魅力そして、それぞれの地域の強みを地域全体で共有し、地域内外に発信し、共に課題解決に向け行動を起こすことでより能動的市民が増え、地方創生の可能性を広げることとなります。

これらの提言が、三泗地区の「地方創生の可能性」を広げ「持続可能なまち」として、これからの三泗地区の発展につながるものと確信しています。

本年度、約一年間の活動を終えるにあたり深く心に残ったことは、関わった市町の職員の方々、市議会、町会議員の方々、そして四日市青年会議所の例会や事業に参加していただいた多くの地域の皆様が、「まちを良くしたい」・「出来ることがあるなら行動したい」、といった、住むまちへの愛着や関心が高いということでした。まちに対して関心が少しあるから参加していただいた部分もあるかと思いますが、フォトコンテストに至っては写真が好きの方、SNSでの情報発信が得意な方など、普段地域のことに関心が高くない方も、フォトコンテストを通じて地域社会へ目を向けるきっかけとなったと考えます。忙しい日常生活の中でもきっかけがあればスイッチが押され、住むまちのことを考え発信者となり得ることが示されました。すなわち、地域の課題解決には、まちに住む人の当事者意識、そして能動的市民の醸成となる機会の発信・提供を繰り返し、持続的にできるか否かが重要であり、それを行うことでより多くの能動的市民が増えます。今回の提言をもって、今後市民参画のチャンネルが一つでも増え、市民参画の機会がより多く提供され、能動的市民が一人でも多く創出されることを願います。

最後に、この提言書を作成するに至り、各方面の方々にヒアリングを実施させていただきました。そして貴重な資料をご提供いただくなど多くのご協力をいただきました。改めて厚く御礼申し上げます。

資料・参考資料

- ・四日市大学 政策提言発表会資料
- ・四日市大学社会連携報告書 令和元年版
- ・四日市人口ビジョン
- ・第2期 四日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・第2期菰野町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・菰野町人口ビジョン
- ・第2期朝日町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・朝日町人口ビジョン
- ・川越町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・川越町人口ビジョン
- ・株式会社 三十三総研 地方創生レポート
- ・四日市広域緑の基本計画
- ・令和2年度総務省 自治行政局市町村課資料
- ・三重県令和元年 観光レクリエーション入込客数推計書・観光客実態調査報告書
- ・【#四日市でみつけたフォトコンテスト】一部アンケート結果

【#四日市でみつけたフォトコンテスト】で寄せられたアンケート

アンケート設問：「四日市市をより活性化するためには何が必要だと思いますか。」

- ・若い世代の移住。物流と人の繋がる港の開発。バスタ四日市を港まで繋げてほしいです。
- ・四日市は通過するだけという声をよく聞くので、四日市を目的とする人を呼べるスポット。
- ・広大なお花畑があるといいと思います。例えばネモフィラとか周りにあまりない花だとたくさんの方が来ると思います。また大規模じゃなくても今でもたくさんのお花の名所があると思うので小規模な場所も含め花マップを作っていただけたら活性化するかなと思います。
- ・若者の定住。近鉄四日市周辺に若者が集えば、雇用や店の出店など、可能性が広がります。集うための拠点が無いのが問題です。例えば、大学があれば在学中、卒業後の定住者も増え、四日市を担う若手が増えると思います。四日市大学のキャンパスができるなどあればいい。
- ・せっかくの素敵な工場夜景なので、海テラスや工場夜景クルーズだけでなくもっと色々な事業を展開すれば良いと思います。
- ・宣伝力が必要。良いところは沢山あります。こうして写真を撮る為に初めて訪れた場所とかや普段通らない道とかにも行ったり、今回も普段は夜の街には出ないのでスナック街とかも知らなかったのも古さも若い方には面白いです。
- ・駅ピアノ(ストリートピアノ)などを商業施設やお子様に来やすい場所や良いロケーションに設置すると、より注目を浴びると思います。特に四日市は名古屋からのアクセスも良いので、身近なところで楽しめる音楽がもう少し増えるといいなと感じています。
- ・人が歩く、街の小径こそ綺麗に整備していきたい 街に住む人がたくさん散歩している街はきっと素敵な街だと思います。
- ・今回のように地元を発掘し市民が広告塔となる。
- ・1番街の一角に昭和を売りにした施設か建物群が出来ればと思います。
- ・四日市の魅力を色々な場面や機会でもPRを継続できる様な体制を整えて、市民や企業と一体化していく事が必要と考える。



一般社団法人四日市青年会議所提言書

2021年11月

発行 一般社団法人四日市青年会議所
第67代理事長 矢野 陽一

編集 一般社団法人四日市青年会議所
まちの未来創造委員会